

高田城跡現地説明会

平成26年11月8日



(高田城跡を南側から撮影)

所在地:陸前高田市高田町鳴石地内
事業名:土地区画 整理事業高田西地区
委託者:陸前高田市
発掘調査期間:平成26年 4月10日～11月30日(予定)
調査対象面積:26,000㎡
遺跡略号・番号:TTJ-14・LE67-0172
調査担当者:村木敬 中村利至久 野中裕貴

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

高田城跡は土地区画整理事業(高田西地区)に伴って行われた緊急発掘調査です。調査面積は49000㎡を対象としており、2ヵ年の計画で進めています。

今回の報告は初年度分の成果をまとめたものです。調査以前は、下記の図の曲輪Ⅰ～Ⅴまでを一つの城館として想定していましたが、遺跡の範囲は曲輪Ⅳまでと狭まることになりました。

調査によって明らかにできた曲輪Ⅳの姿は、Ⅰ～Ⅲの曲輪とは異なる中世城館として考えることができそうです。そして、大変な労力を注いで館を築き上げていくなかで敵の侵入を防ぐために様々な工夫が見られたことから、それらの一部を紹介していきます。

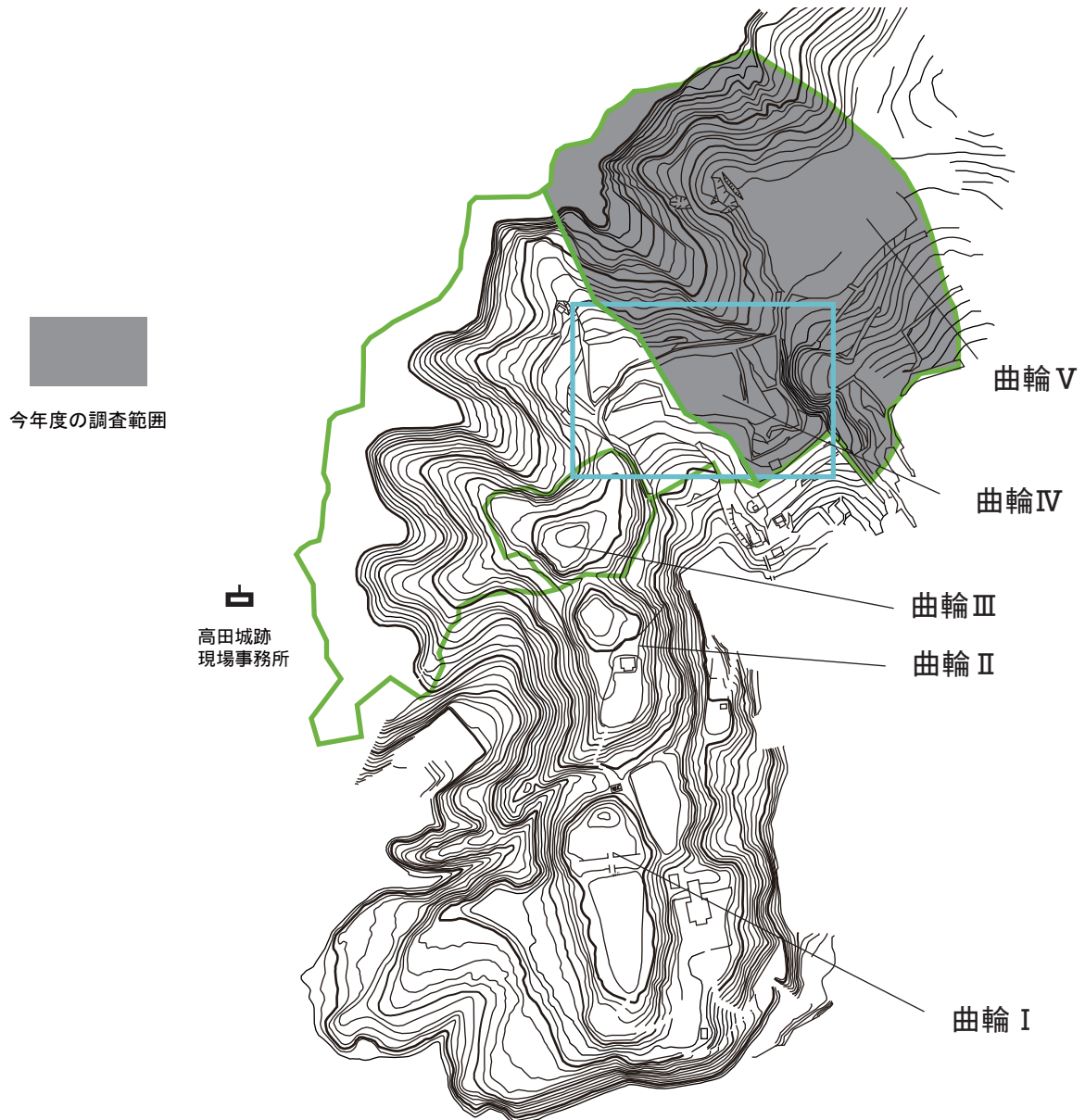
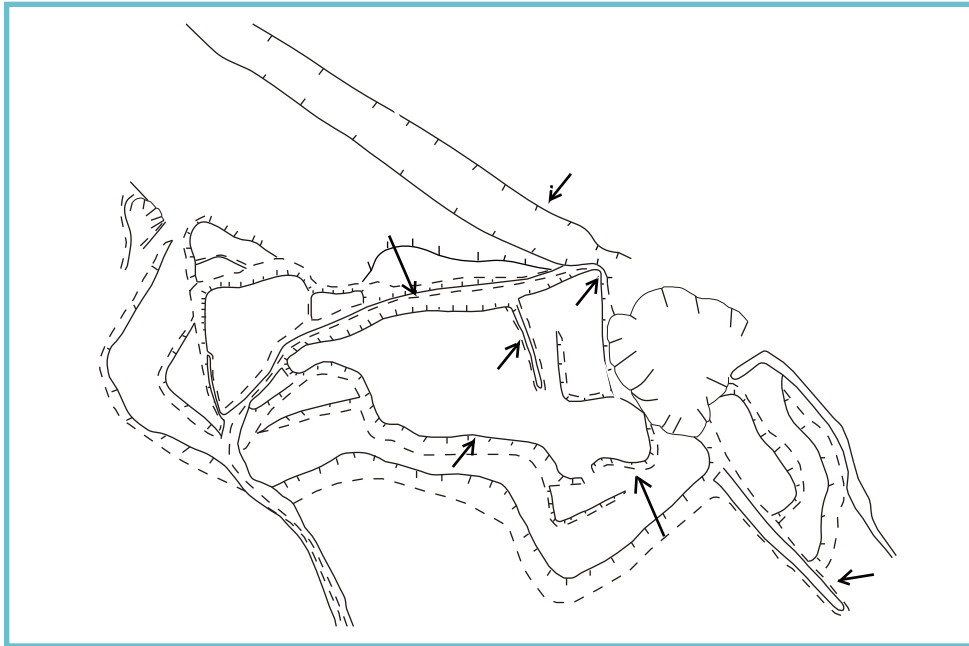


図1 高田城跡 調査区全体図



- ① ほり
- ②・③ どるい
土塁
- ④ 掘立柱建物
- ⑤・⑥ きりぎし
切岸
- ⑦・⑧ こぐち
虎口

図2 曲輪 縄張り図

堀 (図①)

この曲輪の北側に位置しており、谷地形に沿って造られています。長さは約100m、深さが3mほどあります。この堀は通路としても用いられており、その上方では、階段状となり、簡単に登って来られないような工夫が認められます。



土塁 (図②・③)

敵の侵入を防ぐために岩盤を削りだして造られたもので、2箇所確認できました。東側で確認できたものは高さ1.5mほどです。また、主郭の内部にも小さな規模のものが造られていました。③の土塁からは、海側の斜面を守る必要があったものと推測されます。



虎口(図⑦)

入り口として捉えられる虎口を確認できました。写真は堀から上がってきた場所にあたります。この段差を上がると、平場には主郭への上がり口(図⑦)が造られています。ただし、この場の構造については分かっておりません。また、裏手へと向かう場所にも主郭からの降り口(図⑧)が造られています。



切岸(図⑤・⑥)

切岸は、地山を削り、その上を盛り土によって積み上げて造られています。これらは敵の侵入を防ぐための壁であり、急傾斜に仕上げられています。正面(写真左が⑤)は約5m、裏手(写真右が⑥)は約3mと、場所によって高さが異なるようです。正面側がより高く造られていることがうかがえます。



しゅかく

主郭で見つかった遺構・遺物

掘立柱建物を確認できていますが、その他には確認できていません。建物は3×2間の規模のものです。主郭の中央に位置しています。主郭では基本的に生活した痕跡は確認できませんでした。また、陶磁器などの遺物もほとんど見つかっていません。当時のものを示すものとしては青磁1点だけとなります。



まとめ

城館である曲輪IVは、大変な労働力によって築かれていることがうかがえます。そして全体の構造からは、この館が海側に面した斜面を守るような形で作られているように思われます。

このように立派に築かれたにもかかわらず、館の生活の痕跡も認められないことから、恒常的に使用していたのではなく、非常時にのみ利用されていたと考えることができそうです。

残念ながら出土遺物がないために造られた時期については特定できていません。

ただし、昨年度に高田市内で調査した城館の構築方法と一致している点が見つかったことは、この城館を考えていくうえで重要な手がかりとなりそうです。来年度以降の調査によって、高田城の解明に努めていきたいと思えます。



岩手の遺跡略年表

年代	時期区分	遺物	主な事柄	主な国・県指定史跡	センターの主な調査遺跡	センターが調査した市内の主な遺跡
BC10000年	旧石器時代		大型動物が生息する 気候が温暖になる		遠野市金取遺跡 奥州市上萩森遺跡 西和賀町大台野遺跡 西和賀町大渡Ⅱ遺跡	
8000年	縄文時代	石器・木器・骨角器	縄文 土器 縄文土器 縄文土器	大船渡市関谷洞窟 大船渡市蛸ノ浦貝塚 北上市樺山遺跡 一戸町御所野遺跡 北上市八天遺跡 一関市貝島貝塚 大船渡市大洞貝塚	岩泉町龍泉洞新洞遺跡 盛岡市大新町遺跡 軽米町馬場野Ⅱ遺跡 住田町蛇王洞穴遺跡 二戸市馬立Ⅰ遺跡 紫波町西田遺跡 岩手町秋浦Ⅰ・Ⅱ遺跡 花巻市観音堂遺跡・立石遺跡 盛岡市葎内遺跡 平泉町新山権現遺跡 大船渡市上鷹生遺跡 北上市九年橋遺跡	陸前高田市牧田貝塚
4000年						
3000年						
2000年						
1000年						
300年	弥生時代	弥生土器	稲作が始まり、金属器が使用される 卑弥呼が邪馬台国王となる		大船渡市上甲子遺跡 一関市谷起島遺跡 滝沢村湯舟沢遺跡 奥州市常盤広町遺跡	
AD300年	古墳時代	土器 木器 須恵器 金器	大和朝廷が国家統一する 古墳が各地につくられる 仏教が伝わる 聖徳太子が摂政となる 大化の改新がおこる 奈良に都がつくられる 京都に都がつくられる 胆沢城や志波城がつくられる 各地に荘園が広がる 前九年・後三年合戦がおこる 平泉藤原氏滅亡する	奥州市角塚古墳 矢巾町藤沢狄森古墳 北上市江釣子古墳群 岩手町仙波堤・今松遺跡 岩手町浮島古墳群 奥州市胆沢城跡 盛岡市志波城跡 矢巾町徳丹城跡 平泉町毛越寺跡・無量光院跡・中尊寺境内・柳之御所遺跡 花巻市丹内山神社経塚	盛岡市永福寺山遺跡 奥州市高山遺跡 奥州市中半入遺跡 奥州市石田Ⅰ・Ⅱ遺跡 北上市猫谷地遺跡 花巻市熊堂古墳 奥州市膳性遺跡 宮古市長根Ⅰ遺跡 盛岡市台太郎遺跡 久慈市源道遺跡 花巻市似内遺跡 奥州市宮地・落合Ⅱ遺跡 軽米町自角子久保Ⅵ遺跡 二戸市飛鳥台地Ⅰ遺跡 無量光院跡・柳之御所遺跡 ・泉屋遺跡・志羅山遺跡 ・花立Ⅰ遺跡・花立Ⅱ遺跡など	
400年						
600年						
800年						
1000年						
1200年	鎌倉時代	陶器	鎌倉幕府ができる 文永・弘安の役おこる 室町幕府ができる 応仁の乱おこる	北上市下門岡ひじり塚 宮古市一石一字経塚	盛岡市繫Ⅲ遺跡 金ヶ崎町松本館跡 花巻市笹間館跡 一戸町一戸城跡 紫波町柳田館跡 久慈市久慈城跡 遠野市篠館跡 大船渡市猪川館跡	花館跡 高田城跡
1400年	室町時代	磁器	秀吉全国統一する	二戸市九戸城跡		
1600年	安土桃山時代	器	江戸幕府ができる 鎖国が始まる	盛岡市盛岡城跡 南部領伊達領境塚 北上市二子・成田一里塚 旧中山・小繫・川底一里塚 釜石市栗林銭座跡 釜石市橋野高炉跡	奥州市北館跡 平泉町下構遺跡 紫波町栗田Ⅲ遺跡 遠野市佐比内鉄鉾山跡	
1800年	江戸時代		開国が行われる	釜石市橋野高炉跡		
	近・現代		明治維新	奥州市高野長英旧宅		